

待つ勇氣ある、とっても素敵な係わり合い方に拍手！

幼少の自閉症児のメル友の母親から、次のような素敵なメールをいただいた。

【 （姉の運動会の日）学校へ着くと校門の前で急に機嫌が悪くなり、泣き出してしまいました。

きっと人は多くいるし、大きな声はしているし、居心地が良くなかったのかな？と思いました。

私は少しそこに止まって抱きしめてやり、大丈夫だよ、怖くないよ、お姉ちゃんがここでヨーイドンをしてるんだヨ」と話してあげると少し落ち着いて、しばらくすると手をつないで、自分から学校へ入って行ってくれました。 嬉しかったで一す。 】

次のように返信した。

【 お子さんの気持ちを大事に読み取り、待つ勇氣のある、とっても素敵な係わり合い方ですね。

子どもが泣いているのに叱ったりして、益々子どもが泣いてる場面をしばしば目にしますよね。

特に乳幼児期は、まずは、子どもの気持ちをしっかり受け止めてあげることですよね。

抱いてあげたり、あれこれと優しく話しかけ、状況を説明してあげるとは、大事なことと私は思っています。

「あれこれ説明しても、子どもは分からないのだから…」という大人がいますが、そうでないと思っています。

話しかけてる言葉の意味（内容）が分かる、分からないでなく、優しく自分の気持ちを代弁して話かけてくれる大人の表情、気持ちを、子どもがしっかりと感じとってくれることが大事で、それがコミュニケーションを更に求める力を育てて行くと思っています。

だって、生後間もない言葉の分からない乳幼児に、母親はあれこれ説明しながら優しく話しかけていますよね。 自分の気持ちの代弁の話しかけだからこそ、s その状況に対応するその言葉を、まず覚えていくのですよね。

こうした係わり合いを、子どもが大きくなるに従いどうして大人は忘れて行くか、私が不思議に思う一面です。

障害がある、なしに拘わらず、子どもが安心出来る心の居場所があってこそ外の世界へ足を踏み出し、生きる力を子ども自身の中で育てて行くものですよね。

本当にあなたは、お子さんと上手に係わっていますね。 】

この親子のやりとりのように、日頃からの共振し合う係わり合いがあれば、最近の親子間の悲惨な事件のようなことが生じなくなるのでは……と、つい思ってしまう私ですが、みなさんはどう思われますか。

(2006年9月25日記)